

公益財団法人静岡県国際交流協会 令和3年度事業報告

○静岡県の外国人労働者（令和3年10月末）は66,806人と7年連続で過去最高を更新したが、増加率は前年と比べ減少している。在留資格別では、「身分に基づく在留資格」の外国人労働者数が39,627人で、外国人労働者数全体の約6割を占めており、前年比で5.8%の増加、新型コロナウイルス感染症対策で入国制限が続き、技能実習生が減った一方、永住者や日本人の配偶者らが就業することで、全体の数字を押し上げたとみられる。

また、新たに創設された在留資格「特定技能」の労働者数は1,046人（全国は29,592人）となり、切り替えが進んでいる。人手不足に悩む県内企業が外国人人材にかける期待は大きく、外国人の受入数の増加は続くと考えられる。静岡県の労働者派遣・請負で就労する外国人労働者は全体の約4割を占め、全国で2番目と高く、新型コロナウイルス感染症の拡大による雇用情勢の悪化が、外国人労働者にも多大な影響を及ぼしている。

産業別に見ると、「製造業」の増加率の低下が見られる一方、「医療、福祉」が増加し、コロナ禍においても労働力需要が強い介護に従事している。

○令和3年度は、前年度同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、8月から9月に発令された「緊急事態宣言」や1月から2月に発令された「まん延防止等重点措置」適用に準じ、事業の一部変更やオンライン等を組み入れ、コロナ禍の環境に合わせた事業展開を行った。結果として決算額（経常費用計）は、5,006万円余（前年度5,973万円余）、経常増減額は106万円余の赤字決算（前年度391万円余の黒字）となった。

○協会の重点事業としての取組は、令和元年7月に「静岡県多文化共生総合相談センターかめりあ」を開設し3年目に入り、外国人県民からの相談を通じて、相談対応の経験を積み重ね、専門家による相談会の開催や事例の具体的な連携により、各相談に対して的確な課題解決に努めている。

新型コロナウイルス感染症に伴う各種支援・行政の取り組みの情報提供や窓口支援等について、多言語対応が追いつかない保健所や各市町への申請等、外国人相談員と日本人相談員が専門機関の情報をまとめ、多岐に渡る様々な相談対応に追われた。多言語情報や相談員の不十分な体制から、外国人の孤立や生活困窮の悪化などにつながるケースもあり、課題解決に向けた各市町・専門機関との更なる連携や通訳者の整備の必要性を痛感している。

○外国人の定住化に伴い、子育て／教育／労働／福祉等、個々のライフステージに応じた支援が求められている。今まで高校進学を目標に、外国人児童・生徒の教育支援をしてきたが、高校入学後の中途退学や非正規雇用に従事する若者が顕著であり、日本人生徒の格差が義務教育後に拡大していることから、外国人生徒に対して、キャリア支援、日本語指導の取組を開始した。

外国人生徒の特徴を理解している多様な支援者が関わるのが鍵となることから、日本語学校やNPOと連携し、私立高校や公立高校の定時制を対象とした日本語教室の実施や日本語学習教材の作成等を行っている。

○資産運用では、基本財産の投資有価証券の令和4年3月末の時価指数は、110.91（前年同期比113.36）となった。また、事業実施に当たっては、年間を通じ効率的な事業執行や事業効果の最大化を図り、公益法人会計を知悉する会計事務所の指導及び指示に基づき的確な会計処理に努めた。

1 国際理解・交流推進事業

【 県民・団体への働きかけ、連携強化 】

(1) 情報収集提供事業

ア 情報誌(SIR Joy Press) 4,000部を年11回発行した。

イ ホームページ「SIR 静岡県国際交流協会」の保守及び5言語（日本語・やさしい日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語）による情報提供を行った。

・平均ページビュー数 15,286件/月

(2) 国際理解教育事業

国際理解・交流推進に取り組む県内外団体が連携・協働を強化するとともに、県民への情報発信力を高めるため、地域課題に取り組む諸団体・実践者と連携して「アース(明日)カレッジ2021」を開催した。

「アース(明日)カレッジ2021」

- ・開催時期 令和3年7月18日(土)
- ・会場 静岡市葵生涯学習センター アイセル21(静岡市)
- ・参加者 155名(延人数)

(3) 外国語ボランティアバンク設置及び災害時外国語ボランティア育成事業(県委託事業)

県の国際的イベント開催時の言語支援や災害時の外国人住民への円滑な支援体制の構築等を図るため、県が養成した外国語ボランティアや語学が堪能な県民のボランティア登録を行うとともに、情報提供を行った。災害時の外国人支援体制を整備するため、災害時外国語ボランティアの募集・登録を行い、研修会を実施した。

ア 外国語ボランティアバンク設置

・登録者数 1,491名 31言語(内災害時外国語ボランティア 334名 22言語)

イ 災害時外国語ボランティア研修会の開催(東部・中部・西部)

静岡県災害時多言語支援センターや災害時外国語ボランティアの活動についての説明及び講義を行った。

[東 部] 大雨から命を守るために

- ・開催時期 令和3年9月26日(日)
- ・会場 オンライン(Zoom)
- ・参加者 20名

[中 部] 災害時通訳ボランティアの心構えと実践

- ・開催時期 令和4年2月27日(日)
- ・会場 オンライン(Zoom)
- ・参加者 30名

[西 部] HUG(避難所運営ゲーム)体験会

- ・開催時期 令和3年10月30日(土)
- ・会場 表鷲津多目的ホール
- ・参加者 12名

(4) 日本国際連合協会関連事業

国際連合の機能・活動に対する理解を深め、国際活動の基本的能力である語学力の向上を図る機会を一般県民に広く提供した。

国連外国語講座開催(英語・韓国語、年2回開催 各10回、静岡市・沼津市)

- ・外国語講座（受講人数計 248 名）を開催した。

【 海外との関係強化・維持 】

(5) 留学生支援事業

ア ふじのくに留学生親善大使設置事業（県委託事業）

これまで委嘱した「ふじのくに留学生親善大使」が、地域の国際交流事業への参加や学校や地域行事で母国文化を紹介する講師を務めた。

- ・参加事業件数 32 件
- ・事業参加親善大使 41 名

イ 留学生就職支援事業（公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム委託事業）

県内大学に在学し、静岡県内企業への就職を希望する留学生に対し、静岡県の産業や企業を学ぶ講座、企業訪問を実施した。

- ・開催時期 令和 3 年 6 月～令和 4 年 3 月
基礎講座（中部・西部）各 5 回、企業 訪問 1 回
- ・会 場 静岡 B-nest（静岡市）
静岡大学浜松キャンパス（浜松市）
- ・訪問先企業 株式会社サンロフト
- ・参加者 留学生 183 名

(6) 海外国際交流団体連携事業

国際相互理解を促進するため、市民交流希望案件を情報誌やホームページ等を通じ、県民や県内の青少年団体や女性団体、自治体等に情報提供、提案した。

(7) 海外移住者援護事業（県補助事業）

協会ホームページ内「オレンジネット」及び情報誌にブラジル、アルゼンチン、ペルーの各県人会から提供された情報を掲載し、海外静岡県人会への助成や高齢者表彰を行った。

- ・在外県人会への助成

ブラジル県人会 700 千円、アルゼンチン県人会 200 千円、ペルー県人会 200 千円、サンパウロ日伯援護協会 80 千円、アマゾンニア日伯援護協会 80 千円

- ・在外県人高齢者表彰

ブラジル 5 名、アルゼンチン 1 名、アメリカ 1 名

2 多文化共生推進事業

【 外国人住民支援 】

(1) 外国人住民支援アドバイザー設置（県委託事業）

外国人住民が抱える複雑化した課題等に対応するため、ポルトガル語及びスペイン語・ベトナム語・フィリピン語の能力を持つ相談員及び日本人相談員を配置して相談窓口を開設するとともに、県内で開催される専門相談会等に出向き各地域の相談対応を支援した。

- ・相談件数 2,164 件

- ・言語別件数 日本語 452件、英語 61件、中国語 90件、フィリピン語 303件、ベトナム語 529件、インドネシア語 290件、スペイン語 116件、ポルトガル語 254件、その他 2件 合計2,097件
- ・相談内容 入管手続き 486件、雇用・労働 185件、社会保険・年金 99件、税金 51件、医療 262件、出産・子育て 52件、教育 51件、日本語学習 19件、防災・災害 2件、住宅 13件、身分関係 103件、交通・運転免許 10件、通訳・翻訳 157件、その他 674件 合計2,164件

(2) 外国人住民相談窓口高度化事業

外国人住民の生活で重要となる医療、福祉、教育、雇用、防災等の分野での具体的な支援策の構築を図るため、体制整備に向けた検討・研修会や調査を行うとともに、医療通訳者紹介や就労支援マッチング事業に取り組んだ。

ア 静岡県医療通訳体制整備事業（一財自治体国際化協会助成金事業）

◇「医療従事者を対象とした静岡県における医療通訳セミナー」

- ・開催時期 令和4年2月22日（火）
- ・会場 オンライン（Zoom）
- ・参加者 70名（医療従事者、医療ソーシャルワーカー等）

◇「静岡県医療通訳者専門講座」

医療通訳に必要な知識や外国人の診療における注意点、医療通訳の倫理・心得、通訳に必要な機関における受診の流れや患者の心理、通訳に必要な通訳技術等について学んだ。

- ・開催時期 令和3年9月4日（土）、11月13日（土）
- ・会場 オンライン（Zoom）、静岡県男女共同参画センター（静岡市）
- ・参加者 医療通訳養成講座受講者41名、40名
5言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語、ベトナム語、他）

◇「医療通訳者紹介」

- ・派遣者 8件（4言語）
- ・派遣病院 5病院

（静岡県立こども病院、浜松医科大学医学部附属病院、菊川市立総合病院、等）

イ 静岡型定住外国人就業・定着システム構築事業

◇外国人求職者及び雇用に関心のある企業の登録、求職者と企業のマッチングを行った。

- ・企業登録者数 2社（総数74社）
- ・外国人登録者数 5人（総数170人）

ウ 外国につながる高校生を対象とした日本語教育及びキャリア支援事業

◇「日本語学習教材の作成」

- ・内容 高校生の生活場面や進路選択に則したトピック形式とし、日本語能力試験N3を目指す生徒の語彙力や漢字力の習得につなげることをねらいとしたドリル教材の原案を作成した

1 トピック 8 ページ×10 トピック

- ・協 力 NPO 法人浜松日本語・日本文化研究会
- ◇ 「日本語クラスの開催」
 - ・開催時期 9月～2月
 - ・会 場 私立誠恵高校（沼津市）、県立浜松北高校定時制課程（浜松市）
 - ・内 容 日本語能力試験対策や漢字強化を目的とした日本語指導を行った。
誠恵高校 全16回 浜松北高校 全19回
 - ・協 力 グランジャー・グローバル・アカデミー（沼津市にある日本語学校）

(3) 日本語指導ボランティア研修会開催事業

外国人住民への日本語指導を行うボランティアの資質向上及び地域日本語教育の推進を目的とし、「静岡県日本語ボランティアセミナー2022」をオンラインで開催した。コロナ禍における日本語活動の先進事例を聞き、日本語教室の実施体制や教材等、参加者がテーマごとに分かれ情報交換を行った。

ア 「静岡県日本語ボランティアセミナー2022」

- ・開催時期 令和4年1月23日（日）
- ・参加者 87名

イ 日本語サポーター

- ・登録者数 409名（令和4年3月31日現在）

(4) 外国人学校児童生徒日本語支援事業

外国人学校に通う児童生徒の日本語教育について、日本語指導者等と課題を共有した。必要な支援を「子どものための日本語学習支援基金」事業につなげた。

【 地域連携・協働事業 】

(5) 多文化共生団体ネットワーク構築

県内市町の国際交流協会の連携と協働の強化・充実を図るため、情報交換会及び研修等を開催した。

ア ホームページによる情報提供

イ 「外国人支援者を対象とした連携研修会」（県社会福祉協議会委託事業）

外国人相談員に必要な知識を学ぶと共に、各相談機関との連携についてオンラインで学んだ。

[東 部]

- ・開催時期 令和4年2月3日（木）
- ・参加者 48名（県市町相談業務担当者、多文化共生総合相談窓口相談員、国際交流協会職員・相談員、各市町社会福祉協議会職員・相談員、各機関外国人関係業務担当者、医療従事者、医療ソーシャルワーカー等）

[中 部]

- ・開催時期 令和4年1月25日（火）
- ・参加者 49名

[西 部]

- ・開催時期 令和4年1月17日(月)
- ・参加者 46名

(6) 外国人児童支援事業

県拠出金や民間寄附等を財源とする「子どものための日本語学習支援基金」を活用して日本語能力試験受験料助成事業、日本語学習指導者派遣事業、日本語学習教材給付事業を実施した。

子どものための日本語学習支援基金

「日本語能力試験受験料助成」

- ・助成対象者 第1回 49名 第2回 80名

「日本語学習指導者派遣事業」

- ・派遣実施校 2校 ソヒゾ・デ・クリアンサ(菊川市)、
オブジェチャーボ・ジ・イワタ(磐田市)

「日本語学習教材給付事業」

- ・給付対象者 355名、助成金を交付した地域日本語教室 1団体

(7) 外国人技能実習生等日本語支援事業

技能実習生の日本語教育は、企業責任において実施すべきとの考えをもとに、日本語支援者の紹介や地域のイベント参加を促す取組を継続的に行った。